

山武市

(平成29年11月15日)

共生社会に向けたノーマライゼーション学習の実施について

お世話になっております。

先般、市内学校においてスポーツ義足体験授業を実施しました。

これはスポーツ義足を体験することにより、障がいへの理解を深め、共生社会へ向けた心のありかたを学ぶことを目的としています。

また、今後、千葉県からオリンピック・パラリンピック教育を先行的に実践する学校として指定された市内2校において、車いすバスケットボールの体験や車いす体験・高齢者疑似体験を実施する予定ですのでご連絡いたします。

共生社会に向けたノーマライゼーション学習の詳細は別紙のとおりです。

○この件に関するお問い合わせ先

・スポーツ義足体験授業

教育部スポーツ振興課 課長 所田 電話：0475-80-1460

・オリ・パラ教育推進校による授業

市立松尾小学校 教頭 酒井 電話：0479-86-2034

市立山武南中学校 教頭 植田 電話：0475-80-7100

報道機関 各位

平成 29 年 11 月 15 日

平成 29 年度 共生社会に向けたノーマライゼーション学習の実施について

【ユニバーサル・ラン スポーツ義足体験授業】

目的：パラリンピアンから指導・講習を受け、スポーツ義足を体験することにより、障がいへの理解を深め、共生社会へ向けた心のあり方を学ぶ。

日時場所：①7月10日（月）市立緑海小学校
②11月7日（火）市立松尾小学校
市立山武南中学校
④11月8日（水）市立蓮沼小学校

主催：株式会社 LIXIL
東京 2020 オリンピック・パラリンピック推進本部

運営：株式会社 Xiborg（義足メーカー）

講師：7月10日（月）山下千絵選手
11月7、8日（火、水）佐藤圭太選手（トヨタ自動車株式会社所属）

参加児童・生徒は義足を体験することで、義足を使うことの難しさや、ほんの少しの段差が義足を使用する人にとって、とても危険であることを体感しました。パラリンピアンがスポーツ義足をつけて走るデモンストレーションでは、一様に『早い！凄い!!』といった歓声が上がっていました。

義足体験後の座学においては、義足の種類や費用、世界における義足使用者の比率等が紹介され、日本では要因としては少ないが、海外では戦争や地雷の被害を理由として義足の使用を余儀なくされる状況があることを知りました。

過去、視力が落ち眼鏡を使用することを障がいと捉えていたことに触れ、現在は眼鏡を使用することに違和感が無いことと同様に、義足を使用する人との共生社会やユニバーサルデザインの大切さを学びました。

なお、千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した取組方針に基づき、オリンピック・パラリンピック教育を先行的に実践する学校として、市内においては下記の2校が指定され、共生社会の形成を目指すため下記の事業を実施する予定ですのでご案内いたします。

【オリンピック・パラリンピック教育推進校による事業】

目的：次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障がい者への理解等を身につけさせる。

時期：①12月4日（月）午前
②12月15日（金）午後

指定校：①市立松尾小学校
②市立山武南中学校

取組内容：①車いす体験・高齢者疑似体験についての学習
②車いすバスケットボールの体験・講演